

第17巻 スコアアップのための秘訣 II章

コースには距離や難易度でパー3、パー4、パー5と分けられています。どんなコースでも基本は3で上がり、36ホールで108を目標としますが、コースにより攻め方、考え方を変える必要がある場合があります。

3をあきらめ 4 でも良いと考えるホールがあってもいい

100 ㍎近い距離でフェアウェーは狭く、植栽、バンカー等でガードされフルショットをしたらトラブルを起こすようなコースの場合、あえて確実に4で上がるコース戦略を取ることが良い場合があります。例えば、恵庭花夢里コースのCとDコースの8番ホールがそうです。春先、秋口を除いてどんな長距離ヒッターでも両サイドのラフがきつくショートカットでグリーン方向に直接打っていくことは至難です。Cコースは、40～45 ㍎のマウンドで一度止めて2打目は長距離(55～60 ㍎)ですがフェアウェーから打っていったほうが良い結果になることが多いようです。Dコースの8番ホールも同じです。始めから4でいいと考えるとたまには、3で上がることもできますが、このホールは4で良いのです。畏にはまり5や6を叩いてはダメなのです。4で良しとし、3をあきらめるホールがあっても良いのです。柔軟思考が結果的にスコアメイクに繋がるのです。



コースの攻めどころが解からない場合は？

一般的にはティグラウンドから攻略ルートを考えるのですが、毎回特定のコースの打ち所がわからず失敗しているコースの攻略ルートの探り方です。起伏の状態が良くわからずどこを打っていけば良いかわからない場合、ティグラウンドから攻略ルートを組み立てるのではなく、一度、グリーンからティグラウンドの方を見て下さい。すると、起伏の状態、どこを狙うとよいか等、ルートがよくわかります。「押してもダメなら引いてみな」です。意外とわからなかったルートが見えてきます。グリーン上でも同じです。ボールからカップを見て何処に打っていけば良いかわからないときにもカップからボールの方を見て下さい。狙いどころがよくわかりますよ。



ドッグレッグホールへの攻め方

ドッグレッグ(犬の足のように「く」の字に曲がっているコース)ホールでは、最短距離を狙いたがりますが、狙いどころはコーナーの反対側です。ショートするとグリーンを狙えるところまで出さなければならず 1 打損します。ドッグレッグコースでは、コーナーの反対側を狙えがセオリーです。コーナーを狙って「ベタピン」になるのなら狙う価値があるかも知れませんが、そうでない場合、距離が3~4打遠くなくてもリスクの無い攻め方をすべきです。



左ドッグレッグのコース



右ドッグでは、左側女性の方へ！右側男性の方には打たない！

アゲンスト(向かい風)でのティショット

アゲンストで、風に負けまいとして力を入れすぎていませんか？強いアゲンストの場合は、**転がし**作戦でいきましょう。低いライナーなら良いのですが、高いボールでは風に影響されます。無理なスイングをするのでミスを起こすのです。左足延長線上よりもボール1個分内側(右打ちの人は右足側にボール1個分)にティアップして絶対にボールを上げないイメージでボールを打ちましょう。低い打球なら風の影響を受けなくて攻めることができます。リキまないでボールを打つことがポイントです。



このボールの位置では風に影響されます



いつもより、ボール1個分内側に入れて・・・

ティアップする位置を慎重に！

無造作にティアップをしていませんか？ティアップ位置はティライン又はティマークの範囲内なら何処にティアップしても構いません。上手な人ほどティアップの位置を慎重に考えています。例えば、ティグランドが波をうっているようなティグランドでは低い場所に置かない。(ダフってしまう)木と木の間を狙っていくのだが木の間が広く見えるティアップの位置は右なのか左なのか？右が OB の場合、左に対角線上に打っていくためにボール位置は右サイドに置くとか**臨機応変に考えてティアップする必要があります**。



真ん中ばかりで、ティアップしていませんか？コース状況によってティアップの位置は変わります。

30 ㍎のショートホールの攻略がスコアアップの鍵

ショートホールでは、30 ㍎前後の距離が多いと思いませんか？この 30 ㍎前後の距離を確実に「2」で上がることによりスコアは確実にアップします。50 ㍎も 10 ㍎も 1 打は、1 打です。30 ㍎前後の距離は、ほとんどのコースでは 5~6 箇所あると思いますがこれを徹底的に「2」狙いでいくのです。50~60 ㍎の距離のコースを「2」で上がることを考えるよりも易しいことだと思います。飛ばない人でも 30 ㍎の距離ならカップの近くまで打つことが出来ます。あとは、方向性ですが普段の練習で徹底的に 30 ㍎の距離感を養いピッタリとカップまで打てるようにして下さい。自分のティクバックが時計になぞってみると何時まで上げたらその距離まで行くのか徹底的に練習しつかんで下さい。これができるようになると、あとはこの 30 ㍎の応用です。33 ㍎ならもう少しティクバックを大きくする。27 ㍎なら小さくするなど対応が利くと思います。



トリッキーで凸凹なコースほど転がし打法で！

フェアウェーが波のようにうねっているコースがたまにあります。この場合の攻略法は「徹底的に転がす」ことです。ライナー、抜き打ち打法ではワンバウンドの仕方では何処に飛んで行くかわかりません。始めから、転がしていくことにより方向性の良いショットとなるでしょう。



傾斜地でのミスの原因は？

第1打を打ったら方向性が悪く傾斜地に止まってしまった。この状況からのショット「ミス」の原因のほとんどは、「大振り」です。大振りできない状況で大振りしようとするから無理が生じるのです。たとえ、距離が残っていても大振りは禁物です。クラブを短く持ちコンパクトなスイングを心がけましょう。



ラウンド中にストレッチ体操を！

コースをまわっているとだんだん疲れてきます。若いときからみると身体は固くなって柔軟性が無くなっています。36 ホールの後半にショットがおかしくなりだしたら身体が固くなっているのが原因となっている場合があります。疲れが身体を固くしていますので、柔軟体操で身体をほぐす必要があります。前方への屈伸運動、腰にクラブを当ててまわす、足を広げて、片方の足を伸ばし、つま先を立てて腰を落とすなどのストレッチ体操をすることによりナイスショットが戻るでしょう。

